

内陸デポ活用型コンテナラウンドユース

協議会名:ROUND BASE NODA協議会

協議会構成員

株式会社BRIDGEHEAD

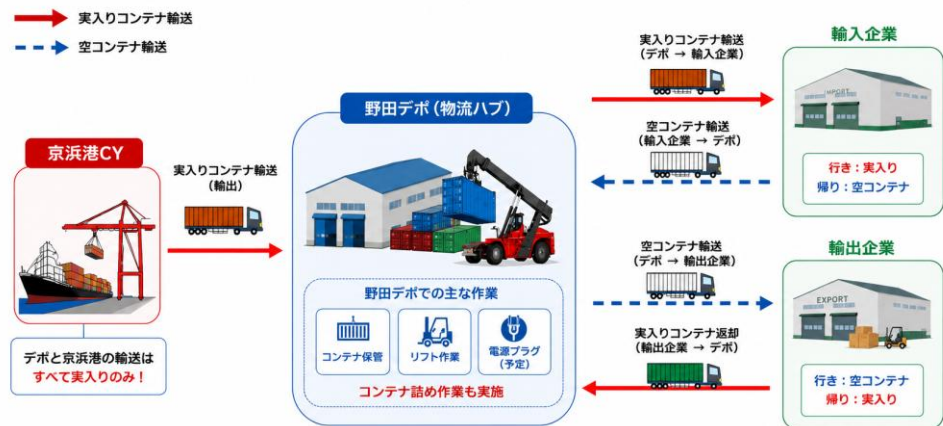
合同会社FUSION

※野田エリアで活動する荷主企業複数社加盟予定

【事業実施背景】近年、時間外労働規制への対応や港湾混雑の影響により、従来の「港から荷主までの一貫輸送」では輸送効率の低下や運行計画の制約が顕在化している。特に、指定時間納品や前日搬出、長時間の待機を伴う輸送はドライバーの拘束時間を増加させ、生産性向上の大きな阻害要因となっていた

事業内容

Point 野田ICDを物流ハブとして活用し、京浜港との幹線輸送と荷主向け地域配送を分離した中継輸送体制を構築。さらに、CRU(コンテナラウンドユース)を推進し、空コンテナの有効活用による空車・空コン輸送の削減と物流効率化を実現



想定事業実施効果

【CO₂排出量削減】
68.1t → 40.4t

27.7t削減/40.7%削減

野田ICDを活用した中継輸送とコンテナラウンドユース(CRU)の導入により、空コンテナ回送や非効率な輸送を削減し、年間約27.7t(約40.7%)のCO₂排出量削減を見込む。あわせてドライバーの拘束時間短縮や車両回転率の向上を実現し、環境負荷低減と物流生産性向上の両立に貢献する。

※CRU(コンテナラウンドユース)・・・輸入時に使用したコンテナを港頭地区における船社が指定する場所へ返却せず、輸出時に再利用する方法。